

プレスリリース

平成 17 年 3 月 30 日
水 産 庁

2004 / 2005 年南極海鯨類捕獲調査船団の入港について

1. 調査船団の入港について

本年度の南極海鯨類捕獲調査(西脇茂利^{にしわきしげとし}調査団長(財団法人日本鯨類研究所))に従事する調査母船「日新丸」、目視採集船「第二勇新丸」、「第一京丸」及び「勇新丸」は、以下により入港する予定である。

(1) 調査母船： 日新丸 (遠山^{とやまだいすけ}大介船長以下 122 名)
目視採集船： 第二勇新丸 (松坂^{まつさかきよし}潔船長以下 18 名)
平成 17 年 3 月 31 日(水)神奈川県横浜市山下埠頭 6 号岸壁
入港式 午前 11:00 ~

(2) 目視採集船： 第一京丸 (亀井^{かめいひではる}秀春船長以下 22 名)
勇新丸 (三浦^{みうらとしゆき}敏行船長以下 19 名)
平成 17 年 3 月 31 日(水)山口県下関市下関サンセイ(株)下関工場
入港式 午前 11:00 ~

2. 調査の概要

- (1) 出港日時：平成 16 年 11 月 12 日(金)山口県下関港出港
- (2) 調査海域：南極海の IWC 海区のうち第 V 区東側(東経 130 度~西経 170 度)及び VI 区(西経 170 度~西経 145 度)
- (3) 捕獲頭数：クロミンク鯨 4 4 0 頭
- (4) 実施機関：財団法人日本鯨類研究所
- (5) 本年の調査の成果
 - ・ クロミンククジラの発見は 1,711 群 4,400 頭であり、従来と比較しても同程度の発見となった。
 - ・ ロス海が例年と比較して大きく開氷していたため、従来難しかった本海域での調査を十分に行うことができた。
 - ・ 採集されたクロミンククジラから 1 頭当たり 100 項目に上るデータを収集しており、これらの分析結果を IWC 科学委員会に提出することとなる。

- ・ クロミンククジラに対する調査の他に、その他の鯨種の調査も実施し、ザトウクジラ、ナガスクジラ、シロナガスクジラといった大型ヒゲクジラを多数発見するとともに、これらの鯨類に対して個体識別用写真撮影や、バイオプシー標本採取、衛星標識の装着等の非致命的調査も積極的に行った。
- ・ 計量魚探や深度水温塩分記録計、表層生物環境モニタリングシステムなどの観測機器類を用いた海洋環境観測調査も行った。

3. その他

2004/05年の調査が現行の調査計画の最終年の調査となるが、クジラを中心とする南極海生態系のさらなる解明とより適切な鯨類資源管理手法の開発のために、来年度（本年秋）からも新しい調査計画により南極海での鯨類捕獲調査を継続する予定である。

（参考）鯨類捕獲調査の法的科学的根拠：

南極海鯨類捕獲調査は、国際捕鯨委員会（IWC）の設置を規定した国際捕鯨取締条約の第8条に基づき実施されてきた国際法上正当な科学調査であり、1987/88年より、予備調査2年を含む18年計画で実施されてきた。

本調査は、南極海におけるミンク鯨を主とする鯨類に関する生物学的データ及び資源的データの収集、鯨類を中心とする南極海の環境及び生態系の解明を目的に実施されてきたもので、調査により得られた情報はIWC科学委員会等の国際的な場で高い評価を受けている。

連絡先

水産庁遠洋課捕鯨班 諸貴、長友、大部

代表電話：03 - 3502 - 8111 内線7242

直通電話：03 - 3502 - 2443